

有事 法制

日本共産党市議団は

発動を許さない

たたかいの先頭に立ちます

広島共同センターの人たちとともにデモ行進する
(左から)中森辰一、藤井とし子、村上あつ子の
各議員 6月10日、広島市中区



市長も「適用される事態とならないことを願う」

参院本会議で有事法が可決強行され、党広島市議団は、発動を許さないたたかいの先頭に立っています。10日には「テロ糾弾、報復戦争反対、有事法制許すな！広島共同センター」のデモ行進に参加しました。

広島市長も、「十分な審議及び国民的議論が尽くされていない…ヒロシマとしては、国際社会での紛争の抑止や解決には、武力ではなく話し合いによる平和的な解決の道を探ることが何よりも大切である…、国に対しては、有事を起こさせないための最大限の外交努力を尽くすことを強く求めたい。…有事関連法が現実適用される事態とならないことを願っている」とコメントしています。

市議団は引き続き、議会の内外で発動を許さないたたかいを展開する決意です。

日本共産党市議団が 議会改革のあり方検討委員会 設置にあたり、議長に申し入れ

浅尾議長(右端)に申し入れる、(左端から)藤井、中原、皆川の各議員=6月5日、議長応接室



海外視察の予算執行は凍結を

日本共産党市議団は6月5日、市議会の議会改革のあり方等に関する検討委員会設置にあたり、議長あてに申し入れをしました。皆川けいし、中原ひろみ、藤井とし子の3議員が議長応接室を訪ね、浅尾幸正議長、原田尚武議会事務局長が応対しました。

申し入れた内容は次の2点。

①市議会の検討委員会のメンバーは一人会派も含め、全会派の代表で構成すること。

②海外視察については、検討委員会での検討結果にもとづく各会派の合意ができるまで、予算の執行は凍結すること。

海外視察の中止について浅尾議長は、「予算はすでに計上されており、(視察に)行く予定の議員もいるだろうから凍結は難しいと思うが、いろんな意味で早く委員会を立ち上げたい」と話しました。検討委員会を全会派で構成することについては、「一人会派が4つあるが、一人だけ代表として出てもらう方向で打診したい」と述べました。

皆川団長は、委員会で検討するテーマについて、「テーマをしぼり、一つひとつ成果を出せるようにするべきだ」と要望し、議長は「同感だ。まずは海外視察から」と答えました。

談合防止

透明性の確保へ

市が6月から

入札・契約制度をさらに改善

広島市はこの6月から、工事請負契約の入札契約制度の新たな改善策を実施しています。これまでの取り組みを検証しながら、「当面実施可能な」下記の改善に取り組んでいます。

昨年12月議会でも改善要求—党市議団

党市議団はこれまでも、機会あるごとに入札制度の改善について取り上げ、昨年12月議会でも皆川議員が、「特に議会のチェックを受けない高速道路公社など外郭団体の発注工事に高値落札の傾向が著しい」と指摘し、改善を求めました。

今年1月、指名業者数の制限を撤廃

広島市は今年1月から、政令市で初めて、設計金額250万円以上のすべての公共工事を対象に指名業者数の制限を撤廃し、地元企業の入札参加の促進と談合防止へ踏み出しています。今回は、これに続く改革となります。

工事請負契約に係る入札・契約制度の改善について（要旨）

(1)建設工事への暴力団の関与の排除徹底

- ①市の発注工事に暴力団が介入してきた場合には、市と警察に届け出ることを義務付ける。
- ②市と県警本部で構成する「広島市建設工事等暴力団対策連絡会」を設置し、協力体制を整備する。
- ③暴力団関係企業が市の発注工事を受注していることが判明した場合には、契約を解除し、その契約額の10分の1を徴収できるようにする。

(2)工事費内訳書の提出拡大

工事費内訳書は、従来、「原則として設計金額3千万円以上の入札」について提出を義務付けていたが、今後、「予定価格250万円超の全ての入札」について提出を義務付けて、適正価格での入札を図る。

(3)系列会社の入札参加制限の拡大

公募型指名競争入札及び希望型指名競争入札においてすでに実施している「系列会社の入札参加制限」を、一般競争入札及び汎用型指名競争入札にも実施し、入札の透明性、公正性をさらに高める。

(4)随意契約(見積合わせ)における業者選定理由書の公表

随意契約において、設計金額100万円以上の工事については、「見積業者選定理由書」を作成・公表し、従来明らかにされていなかった業者選定理由を明らかにする。

(5)随意契約(見積合わせ)における業者選定数の拡大

「3者以上」としている随意契約(見積合わせ)の業者選定数を、設計金額100万円以上の工事については「6者以上」とし、公平性を高める。

(6)入札後資格確認型一般競争入札の試行

電子入札の導入に向けて試行している郵便入札において、従来、入札前にすべての入札参加希望者におこなっていた資格審査を、入札で最低価格を提示した業者(落札予定業者)のみにおこない、事務の簡素化につとめる。

(7)ISO9001または9002の認証取得業者対象工事の試行

設計金額2億円以上の一般競争入札または公募型指名競争入札について、ISO9001(品質管理マネジメントシステムの国際標準規格)の認証取得を資格要件として入札を試行し、ISOの有効性を検証する。

【用語解説】

設計金額

発注者が工事にかかる資材費や人件費などを積算した金額。

予定価格

入札の上限額。設計金額の端数を切り捨てるなど修正してはじき出す価格。

一般競争入札

契約に関する公告を行い、一定の資格がある不特定多数の希望者すべてが参加できる入札。

指名競争入札

事前の審査で入札参加資格を有すると認められた者の中から、発注者が入札参加者を指名する入札。広島市では「汎用型指名競争入札」という。

公募型指名競争入札

契約に関する公告を行い、申し込みをした受注意欲のある者の中から、発注者が入札参加者を指名する入札。

希望型指名競争入札

受注を希望する工事の種類をあらかじめ業者に登録させ、その中から工事内容に応じて発注者が入札参加者を指名する入札。

随意契約

契約の相手方を選定するのに競争の方法によることなく、適正に施工できる者を選んで契約を結ぶ方法。予定価格が250万円を超えない小額工事の発注手続を簡略するなどの目的で用いられる。競争性を維持するために複数の相手から見積書を徴することが望ましい(見積り合わせ)。